

写

**青少年活動の活性化における
ジュニアリーダーの確保・育成のあり方について**

(答申)

**令和3年1月
甲斐市社会教育委員の会議**

目 次

はじめに	1
第一章 青少年育成活動の現状	2
1 国・県の状況.....	2
2 甲斐市の状況.....	2
3 敷島子どもクラブ組織と現状	4
第二章 子どもの地域活動への参加	7
1 地域との関わり方.....	7
2 地域の担い手の育成.....	7
3 地域とのつながり	7
第三章 ジュニアリーダーの課題と取組	8
1 ジュニアリーダーの現状と課題.....	8
2 今後の取組.....	8
1) 地域の大人の取組	9
2) 学校の取組	9
3) 家庭の取組	9
3 ジュニアリーダーの活動内容の拡大.....	9
4 将来への展望.....	10
第四章 提 言	11
むすびに	12
資料	13
甲斐市社会教育委員の会議への諮問事項.....	13
令和2年度 甲斐市社会教育委員	16
答申書編集委員会	16
審 議 経 過.....	16

はじめに

甲斐市社会教育委員の会議では、令和2年9月3日付甲斐市教育委員会より「青少年活動の活性化におけるジュニアリーダーの確保・育成について」の諮問（P.13～P.15）を受け、議論を進めてきた。

青少年の活動においては、中学生・高校生は地域の中で自分の役割があることを実感し、地域の一員としての自己を認識していく必要がある。

一方、大人側も中学生・高校生を地域の一員として将来のリーダーとして位置づけ、育成していくことが望まれる。

甲斐市はこれまで「地域全体で子どもを育てる」という考え方のもとに、家庭・学校・地域による創甲斐教育を進め、一定の成果をあげている。

今後は、「育てる」教育を一步進めて、子どもが地域の一員として「大人とともに地域をつくる」存在として活動できるように、家庭・学校・地域が連携して環境を整えることが必要である。

今期の社会教育委員の会議では、このような考え方で子どもたちと地域の関わりについて調査・研究を進め、現状の課題を把握したうえで、地域の一員として子どもたちが地域づくりに関われるように検討し、その成果を提言書にまとめた。

青少年活動の活性化という大きなテーマに取り組んだにもかかわらず、検討の期間が4ヶ月間という短期間なうえ、コロナ禍も加わって十分な議論ができる状況ではない。今回の提言書作成過程で、子どもたちから直接意見を聞く機会を持つことや、アンケートによる集計・分析等ができなかったことは、時間がないとはいえ残念な結果である。

この提言書を具現化する際には、多様な手法を用いて子どものニーズや考え方を把握し、笑顔あふれる未来の甲斐市を想像しながら、その上で事業化することが重要であると考え

る。

本提言書を受け、子どもと大人と一緒に地域をつくる活動や将来の夢について議論し、その成果を甲斐市が進める創甲斐教育をはじめとする各種事業に活かされることを期待したい。

甲斐市社会教育委員の会議

第一章 青少年育成活動の現状

1 国・県の状況

国においては、平成22年4月、総合的な子ども・若者育成支援のための施策を推進することを目的とした「子ども・若者育成支援推進法」が施行され、その法律第8条第1項の規定に基づき平成28年2月「子供・若者育成支援推進大綱」が策定された。その中で、多くの家庭・学校・地域・情報通信環境をめぐる現状と、子ども・若者への支援、社会環境整備、地域全体で子ども・若者を育む環境づくりの課題が報告されている。

その大綱の趣旨を勘案して山梨県は、令和2年3月に「やまなし子供・若者育成指針」を策定し、その中で、今後取り組んでいく5つの基本目標と施策体系を記している。①全ての子供・若者の健やかな成長に向けた支援 ②困難を有する子供・若者やその家族へのきめ細かな支援 ③子供・若者の成長を社会全体で支える環境づくり ④子供・若者の成長を支える担い手の養成 ⑤やまなしの未来を切り拓く子供・若者への応援。また、青少年育成団体関係者の人材育成についても取り上げている。

2 甲斐市の状況

甲斐市においては、令和2年3月策定された「第2次甲斐市総合計画(後期基本計画)」の中で、青少年健全育成の推進の現状を「地域の中で青少年活動を活性化させるため、ジュニアリーダーやシニアリーダーを対象とした研修会等を実施するとともに、市子どもクラブ指導者連絡協議会主催の球技大会、野外活動及び各自治会の子どもクラブ(育成会)の活動を支援しています」と説明し、また、生涯学び活動できる環境の整備充実の項目に「生涯学習指導者人材バンクを継続的に整備し、様々なジャンルの講師・指導者の確保を図っています」と現状の取組が記されている。

今後の青少年健全育成推進の施策の方向は、「多様化する社会の中で、青少年を取り巻く環境は大きく変化していることから、家庭・学校・地域が常に連携し青少年の健全育成を推進するため、次世代を担う青少年の指導体制の充実を図ります。また、青少年の指導育成については、庁内の広範な部署に関係していることから、全庁的な調整推進組織である甲斐市青少年総合対策本部を中核として、青少年育成甲斐市民会議等の関係機関と連携を図りながら、まちづくりを支える人づくりを念頭におき、青少年活動の活性化や健全育成の環境整備について、効率的・効果的な取組を推進します。」と記されている。

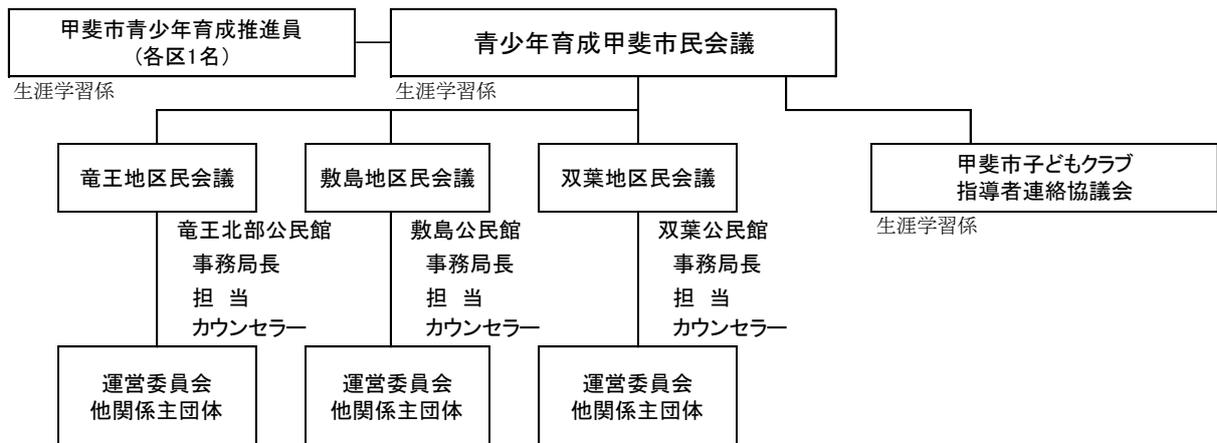
甲斐市の青少年育成活動の組織(組織図参照)として、青少年育成甲斐市民会議(以下「市民会議」という。)があり、その下に青少年育成甲斐市竜王地区民会議・青少年育成甲斐市敷島地区民会議・青少年育成甲斐市双葉地区民会議・甲斐市子どもクラブ指導者連絡

協議会（以下「市子連」という。）がある。

また、青少年育成推進員が各自治会に1名置かれている。竜王地区と双葉地区は育成会長が兼ねている場合が多い。敷島地区では青少年育成推進員会があり、推進委員の任期は2年だが、3地区とも1年で交代する自治会が多くなっている。

市民会議・市子連の事務局は生涯学習文化課内に置き、竜王地区民会議・敷島地区民会議・双葉地区民会議の事務局は竜王北部公民館・敷島公民館・双葉公民館内にそれぞれあり、また、各地区の青少年育成カウンセラーがコーディネートしている。

【青少年関係団体組織図】



市子連の下部組織に、竜王地区子どもクラブ指導者連絡協議会・敷島地区子どもクラブ指導者協議会・双葉地区子どもクラブ指導者連絡協議会（以下「各地区子連」という。）があり、市子連は、各地区子連の連絡調整及び指導者の資質の向上・育成を図り、子どもクラブの自主的な活動やジュニアリーダー・シニアリーダーの活動を促進している。竜王地区と双葉地区では、合併前からの組織である育成会連絡協議会の役員が子どもクラブ指導者連絡協議会の役員を兼任している。敷島地区子どもクラブ指導者協議会は、合併前から活動しており、各地区子連では、球技大会やジュニアリーダーの研修会等の事業を行っている。各地区子連は、合併前から行われている取組があり、それぞれの特徴を生かして活動をしている。

市子連では、各地区のジュニアリーダーを集め、ジュニアリーダー交流研修会、ラジオ体操講習会&軽スポーツ体験会、バルーンアート研修会を行っている。また、子どもクラブ交流ドッジボール大会も行っている。

甲斐市のわくわくフェスタに市子連として参加、各地区のジュニアリーダーが参加し、多くの子ども達に喜ばれた。

各地区子連の下には、竜王地区ジュニアリーダー会、双葉地区ジュニアリーダー会がある。敷島地区は、高校生リーダー会として活動している。ジュニアリーダー会では、定例会や公民館祭りへの参加、野外活動、スポーツ体験などを行っている。

【各地区ジュニアリーダー会・高校生リーダー会の主な事業】

竜王地区ジュニアリーダー会	敷島地区高校生リーダー会	双葉地区ジュニアリーダー会
定例会(年 9 回)	定例会(年 12 回)	定例会(年 7 回)
竜王地区公民館祭り参加	敷島公民館祭り参加等	双葉公民館祭り参加
ジュニアリーダー野外研修会	ジュニアリーダー研修会の企画運営(前期・後期)	ジュニアリーダー研修会等
ドッジボール交流大会等	子どもクラブドッジボール大会企画運営	軽スポーツ大会主催
地域の祭りへの参加	高校生リーダー会交流会	野外体験会主催
		福祉施設訪問

甲斐市にはシニアリーダー会(ジュニアリーダーを卒業した18才以上が参加)があり、定例会を持ち、研修会を通して自己研鑽に努めている。また、市子連の事業に参加しながらジュニアリーダーを指導し、各地区ジュニアリーダー会にも参加し指導している。シニアリーダーは、ジュニアリーダーに年齢が近いこともありジュニアリーダーの信頼を得て、ジュニアリーダーの育成に大きな役割を担っている。しかし、会員が減少し少人数で活動している現状である。

3 敷島子どもクラブ組織と現状

敷島地区民会議においては、青少年の健全育成に広く地区住民の理解や協力を得られるよう、敷島子どもクラブ指導者協議会をはじめとする各種の青少年育成関係諸団体と協力し、連携を保つ中で青少年の健全育成を推進している。

敷島地区子どもクラブは、地域の子どもたちが自主的に親睦を図り交流を深めるための組織で、学校のような学年ごとでなく、多世代の縦割りで活動しており、保護者等の指導員やジュニアリーダーのOBからなる、子どもクラブ指導者協議会がまとめ役となってその活動を支援している。

活動の牽引役は高校生リーダーが担っており、学校の合間に定期的に集まって、交流しながら活動内容について話し合いをしている。

高校生リーダーは、ジュニアリーダーから引き続き活動している子どもたちで、ジュニアリーダー研修会、地域のお祭りやイベントの企画運営などに参画し、ボランティア活動に取り組んでいる。

ジュニアリーダー・高校生リーダーの主な活動としては、

- ・ 甲斐市敷島子どもクラブ指導者協議会総会
- ・ 甲斐市ふれあい祭りへの参加
- ・ 前期ジュニアリーダー研修会（清川地域ふれあい館）の企画運営
- ・ 敷島地区子どもクラブ親睦球技大会の企画運営
- ・ 後期ジュニアリーダー研修会（吉沢地域ふれあい館）の企画運営
- ・ 高校生リーダー交流会の企画運営
- ・ 敷島地区子どもクラブドッジボール大会の企画運営
- ・ ウィンターキャンプ（国立信州高遠青少年自然の家）の開催

など様々である。【別表・1】

これらの活動においては、高校生リーダーが中心となって事業内容の企画や進行運営を行っており、あくまで子どもたちの自主性を尊重しながら、子どもクラブ指導者協議会の指導員が助言や支援を行い、子どもを中心としたコミュニティが形成されるよう見守るとともに、これからのリーダーの育成と活用に力を入れている。

しかし、ジュニアリーダーを各地区から推薦を受け登録しても、リーダーとして活動することが定着しないのが実情である。



【ジュニアリーダー研修：バルーンアート研修】

【別表・1】

敷島ジュニアリーダー・高校生リーダーの年間活動内容（令和元年度）

行 事 名	高校生リーダーの役割	ジュニアリーダーの役割	アンケート結果	事業効果
甲斐市敷島子どもクラブ指導者協議会総会 ※4月下旬	・総会の司会進行。年間行事の説明。 ・役員を選出。	地域から選出されたジュニアリーダーが、参加して、子どもクラブの年間行事の内容を把握する。また、役員を選出する。	アンケートなし	・司会進行、活動内容の説明など大勢の人前で話すことの大切さの習得。
甲斐市ふれあい祭り (甲斐市クラインガルテンクラブハウス)で実施。 ※5月上旬	・バルーンアートの作成。	高校生リーダーが作成しているバルーンアートを見ながら、作り方を覚える。		・バルーンアートを利用して、ものづくりの大切さ、技術力の向上。 ・来客者相手の接客能力の向上。
前期ジュニアリーダー研修会 ※6月下旬	・司会進行。アイスブレイクの進行。 ・班の名称などを決める際の手伝いをする。 ・研修会、関所ハイクの手伝い	アイスブレイクの手伝い。 班長などの役を担当する。	バルーンアートについていろいろ知ることができた。 友だちができ協力することができた。 みんなと一緒に協力すれば楽しい。	・リーダー能力の向上。 ・連帯感、責任感の育成。 ・他の人に対する思いやりの気持ち。
球技大会 ※7月下旬	・司会進行。指導者協議会の役員と一緒に球技大会の進行を手伝う。 ・試合結果の取りまとめ。掲示板への記載など。	チームをまとめ、競技を通してコミュニケーションを図る。	アンケートなし	・連帯感・責任感・コミュニケーション能力の向上。
後期ジュニアリーダー研修会 ※10月下旬	・司会進行。アイスブレイクの進行。 ・班の名称などを決める際の手伝いをする。	・アイスブレイクの手伝い。 ・班長などの役を担当する。	みんなの名前を覚えることができた。 チームワークが大切ということを学べた。 仲間と一緒に行動することの大切さが分かった。 知らない人と友達になれた。	・リーダー能力の向上。 ・連帯感、責任感の育成。 ・他の人に対する思いやりの気持ち。 人間力の向上。
高校生リーダー会交流会 (ドッジボールルール説明会) ※11月上旬	・司会進行。アイスブレイクの進行。 ・ドッジボールのルール説明。 ・練習試合の進行及び、ゲーム内でのルール説明。	・交流会に参加して、自分のチーム内のルールの周知及びアイスブレイクを通してコミュニケーションを図る際に中心となる。	アンケートなし	・説明力、自己表現能力の向上。 ・コミュニケーション能力の向上。 ・年下に対する思いやり能力の向上。
ドッジボール大会 ※11月下旬	・開会式・閉会式の司会進行。 ・各試合のゲーム結果の取りまとめ。試合結果の掲示。	・自分のチームがスムーズに試合ができるようコミュニケーションを図り、まとめる。 また、チーム内低学年の児童が楽しんで参加できるよう、チームをまとめる。	アンケートなし	・競技進行による、責任感、積極性 ・コミュニケーション能力の向上。 ・競技内容説明による、説明力の向上。
ウィンターキャンプ 国立信州高遠青少年自然の家 1月末土曜日・日曜日1泊2日	・集合時の受付(総合文化会館入口) ・行く帰りのバス内のレクリエーションの進行。 ・開所式・閉所式の司会進行。宿泊棟内のジュニアリーダーのとりまとめ。 ・雪像づくり、そり滑りなどの各種ゲームの運営 ※採点、競技タイムなどのとりまとめ。	・班長などの役を担当して、班内のコミュニケーションを図る際に中心となる。 ・班内の低学年の児童が楽しんで参加できるようチームをまとめる。	楽しむことができた。22人中全員。 誰にでもしっかりあいさつができた。 22人中全員。 ウィンターキャンプをむ思っきり楽しむことができた。来年も参加したい。 普段はしゃべらない人と接することができた。 皆と協力して普段は出来ないことが出来て良かった。 皆と仲良く楽しく活動できた。他校の人と話しが出来て良かった。中2なので責任もって行動が出来た。他の人と協力してやり切る充実感を味わえた。	・宿泊研修実施による責任感、積極性、連帯性の向上。 ・年下に対する、思いやり、人間力の向上。 ・参加児童をまとめるコミュニケーション能力の向上。 ・事務局(担当者)との伝達・連絡能力の向上。

第二章 子どもの地域活動への参加

子どもが地域活動に参加することの意義について、子どもの視点を中心にするとともに、地域の大人の視点を加えながら検討していく。

1 地域との関わり方

子どもは地域活動に関わることで、達成感を味わうとともに、地域に対してもっと自分に来ることはないか、より地域をよくしたいという思いを強くしていくことが予想される。さらに、関わった仲間や大人からの評価(認められ、褒められ、励まされるなど)によって、子どもは地域に対する愛着心が高まり、地域における自分の居場所や家庭・学校・地域と自分との関わりを実感していく。

大人は子どもと協働して地域活動を進める中で、子どもの力を見直し、改めて子どもを地域の一員として認識するとともに、関わった大人同士も互いのつながりを深めていく。

また、子どもと大人が協働して地域活動に取り組むことの意義が地域の中で共存されることになり、子どもの地域参加を促すための環境整備を、学校や家庭も巻き込んで進めることが必要である。

2 地域の担い手の育成

子どもは地域活動を経験することによって、様々な世代との関わりからコミュニケーションの大切さや他者と交わることの大切さ、難しさを学ぶことができる。さらに子どもがその発達段階に合わせて、地域との関わりを重ねていくことにより、大学生や社会人となった後も、地域の一員として力を発揮できる存在になる。このことは、地域の担い手を継続的に育成することにもつながっていくと考えられる。

また、地域課題や地域の将来像について、子どもも大人も含め、より多くの幅広い層の地域住民が参加し、議論を重ね実践していくことが必要であり、この取組の中で新たな関係を生じ、考え、成長していくことができ、主体的な意識に気持ちを切り替えていくことが必要である。

3 地域とのつながり

子どもの地域活動への参加のきっかけは、行政や社会教育施設、地域からの働きかけが多いが、学校からの働きかけによる取組も増えてほしいところである。様々な主体の働きかけにより、子どもの取組や成長に多様性が生まれるとともに、新たな人間関係や地域のつながりが生まれ、家庭・学校・地域の連携や地域の活性化が促進される。

第三章 ジュニアリーダーの課題と取組

1 ジュニアリーダーの現状と課題

【ジュニアリーダーとは、子ども会を中心に地域活動を行う青少年のことを言い、子ども会のお兄さんお姉さんとして、子ども達の自主的な活動を下支えするリーダー的な役割を担う】とされている。

本来ジュニアリーダーには、各地区育成会・子どもクラブで地区の子どもたちのリーダーとして活躍してもらおう事や、ジュニアリーダー会に参加して自己研鑽を積んで地区に帰り、地域の子どものクラブのリーダーとして活性化に努める事を期待されている。しかし、現在、地区の行事に参加する子どもが減ってきており、また、育成会の親たちも、仕事の都合等で地区行事に参加が困難になってきている。各地区子連でも、体験会などを企画しジュニアリーダーの募集に努めているが、最近では子ども達が塾や習い事等に忙しく、定期的に会に参加することが困難になってきており、募集してもなかなか集まらないのが現状である。

そのため、各地区育成会や子どもクラブから募集するだけでなく、広く市全体からジュニアリーダーとして小学校4年生から高校生まで募集している。多くの子どもたちに参加してもらうためには、更なる努力と工夫が必要である。

また、敷島地区の【別表・1】令和元年度アンケート結果から、「チームワークの大切さが分かった」「仲間と一緒に行動することの大切さが分かった」「皆と協力して普段できないことが出来て良かった」など、事業に参画して新たな関係が生まれ、考え、成長し、積極的に行動する意識がうかがえ、これからの活動に期待を寄せたい。しかし一方では、最近では、スポーツ少年団や学習塾など様々な校外活動と競合する状況もあり、少子化も進む中で、子どもクラブ活動へ参加する子どもたちが減少しているのも現状である。

また、リーダー登録した本人たちの自覚も希薄で、未だリーダーとして認識し自己研鑽することも少ないように感じられている。

家庭と地域のつながりや、保護者の認識など、新たなコミュニケーションの広がりへの期待もない状況も一因であると考える。

2 今後の取組

ジュニアリーダーは小学生から大学生・青年層まで世代を超えた活動が可能であり、中・高生として中心的な活動を終えた後も、人間関係が持続できる力を持っている。その人材を地域で生かし、地域づくり、次世代育成のキーパーソンとして育てていくために研修等に参加させる取組を進め、地域活動の企画・計画段階からジュニアリーダーの意見を反映させ、活動全体をジュニアリーダーに任せることが必要である。

1) 地域の大人の取組

子どもに関わる行政職員や学校関係者、地域住民はすべて子どもと地域活動をつなぐコーディネーターになり得る。さらにその中で中心となるキーパーソンが大人同士をつなぎ、子どもの活動機会を拡大していく。様々な地域活動を通して、コーディネーターの質を高めるためにサポートするとともに、人材を発掘し、地域活動に参加している大人がキーパーソンとなるように支え育てていく。将来的にキーパーソンとなる可能性を持つ子どもにできるだけ多様な地域活動と関わりを持たせ、経験を積み重ねる機会を提供していくことが必要である。

2) 学校の取組

学校が抱える課題が複雑化している状況の中、困難な課題を改善していくためには、より一層地域に開かれ、地域と積極的に向き合うことで、地域に信頼される学校づくりを進めていく必要がある。子どもが地域活動に参加しやすいように、窓口となる担当者を明確にするとともに、子どもの地域活動を学校全体が活動の継続に向けて支えていく。また学校行事と重ならないよう情報の収集と配慮も必要である。

3) 家庭の取組

家庭は子どもにとって、一番身近な地域活動の基礎を生む場であり、地域活動の意義を伝えられる場であり、地域活動の原動力を培う場である。

子どもたちが地域で活動することによって、家庭が地域とつながり、新たなコミュニケーションの広がりを期待できる。親が地域の一員としての自覚を高め、子どもの地域活動に目を向け推進していくことが必要である。

3 ジュニアリーダーの活動内容の拡大

ジュニアリーダーは、学校の生徒会と同様に話し合いのスキルを持ち、日常的に地域活動に係わっている組織である。彼らの「地域を活性化させたい」「自分たちに任せてほしい」という願いや意欲を生かすとともに、より実践力のあるジュニアリーダーに育成するために、地域のリーダーとして期待し、地域活動の企画・運営を任せていくことが必要である。

地域づくりの活動においても、運営スタッフの一員として大人と一緒に話し合い、企画を練り上げていく力を持っていることから、これを生かす機会を増やしていく必要がある。

また、ジュニアリーダーは子どもクラブなどで指導的な立場にあり、ジュニアリーダーの研修の中に活動の中核となるための内容等を取り入れ、資質や能力をさらに高めるようなプログラムを組み入れる必要がある。

4 将来への展望

ジュニアリーダーは、短期的な役割を果たすものでなく、継続的に定着した活動を担っていくことが重要である。

ジュニアリーダーの推薦を受け、登録されたときは、地区民会議からの委嘱状の交付を受け、リーダーとして認識するとともに、研修会を通じて自己研鑽に励み、子どもクラブ指導員へと継続的に関わることが望まれる。

そのためにもまず、ジュニアリーダーを知ることが大切であり、ジュニアリーダー等が参画しているお祭り、イベント等の行事について、地区自治会で回覧したり、各学校の児童会や生徒会だよりに記事を掲載して、活動を知ってもらい、実際に活動している姿を見てもらうことが近道ではないだろうか。また、身近な友達と気軽に参加できる交流機会を提供することも活動のきっかけになり得る。

子どもは、地域活動を経験することによって、様々な世代との関わりからコミュニケーションの大切さや他者と交流することの大切さを学ぶことができる。

また、子どもがその発達段階に合わせて、地域との関わりを重ねていくことにより、社会人となった後も地域の一員として力を発揮できる存在になる。つまり、地域の担い手を継続的に育成することにつながる。

それぞれが地域の一員であるという自覚を高め、日常的に地域活動に目を向け、関わり合っていくことが、子どもたちの地域活動を拡大していくことにもなる。

我々は、地域のコーディネーターとしての役割が期待できる人材を継続的に育成できるよう、年代に合ったプログラムを提供する組織体制を構築することが重要であると考えている。



【ジュニアリーダー研修：クリスマス研修会にてレクダンス】

第四章 提 言

- 青少年(ジュニアリーダー)が地域に溶け込むきっかけづくりを目的とした、気軽に参加できる交流機会の提供
- 世代を超えた住民参加を目的とした、地域の良さを知る青少年(ジュニアリーダー)と地域の大人たちのあり方を考える学習機会の提供
- 将来を期待される青少年(ジュニアリーダー・シニアリーダー)が地域のコーディネーターとして活躍できるよう、地域づくりを推進している指導者による人材育成の推進
- 地域の文化を継承し、新たな地域づくりを目指して、家庭・学校・地域が連携及び協働し、未来の地域を担う青少年育成(ジュニアリーダーの確保)に取り組む事業支援



【ジュニアリーダー研修：ラジオ体操講習】

むすびに

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、生命や社会経済が脅かされ、いまだに終息の目途はたっていない、世界規模でも類を見ない年となっている。

今年度予定されていた青少年関係の事業もほとんど中止となり、地域での活動も制限されている状況であり、今後も感染予防対策は継続され、生活様式や社会活動が見直される局面が続くと推測される。

また、青少年への支援活動が薄れていく事が懸念されるが、青少年には「生き抜く力」を身につけてもらい、複雑化する社会に流されないように、家庭・学校・地域の連携体制を一層重要視し、進めていかなければならないと考える。

甲斐市に生まれ育った青少年も、大学進学や就職等で、市外や県外に移り住む傾向にあるが、「故郷・甲斐市へ戻りたい」「慣れ親しんだ地域で暮らしたい」という気持ちを持ち続けてほしい。

「甲斐市の青少年は、全員がジュニアリーダー」という想いで、甲斐市の 10 年先、20 年先を見据え、青少年が地域社会における活躍の場をどうすれば得られるのか、社会教育に何ができるのかを探るためにも、今回の提言が、関係諸団体や学校及び自治会を含めた各地域での青少年の活動に反映されることを切望する。

甲斐市社会教育委員の会議 委員長 立澤 眞一

資料

甲斐市社会教育委員の会議への諮問事項

令和2年9月3日

1 諮問事項

青少年活動の活性化におけるジュニアリーダーの確保・育成のあり方について

2 諮問理由

甲斐市では令和2年3月に「第2次創甲斐教育推進大綱」を策定いたしました。この中で、施策項目として「青少年健全育成の推進」を掲げており、そのうちの「青少年活動の活性化」では、ジュニアリーダーの確保・育成をはじめ、異年齢・多地域・多文化の子どもたちが参加する事業の開催などに取り組むこととしております。また、生涯学習文化課では事業計画として、毎年「生涯学習推進計画」を策定し、各種事業に取り組むこととしております。

このうち、ジュニアリーダー活動は、異年齢集団の係わりの中で、学校とは異なる遊びや体験を通じて思いやりの心を育て、自主性・社会性・創造性などを身に付けることを目的としています。そのジュニアリーダーは、自ら考え、表現し、行動する力を身につけることにより、大人の指導者とともに青少年活動の中心として活動することが期待されているところです。

そこで、次の現状・課題を踏まえ、今後のジュニアリーダーの確保・育成のあり方について、社会教育委員の意見を求めるものです。

3 現状

(1) ジュニアリーダーの人数

ジュニアリーダーの人数の推移については表1のとおりであり、近年は横ばいだが、減少傾向にある。

■ (表1) ジュニアリーダー人数の推移

年度	H27年	H28年	H29年	H30年	R01年	R02年
人数	150人	129人	101人	104人	107人	102人

※H27～R01までは3月末現在 R02は7月1日現在

地区別、学年別のジュニアリーダー人数の内訳については表2のとおりであり、地区別では大きな差はみられないが、学年別では小学校6年生・中学1年生が多い。

■ (表2) ジュニアリーダーの地区別学年別内訳 (令和2年7月1日現在)

地区名	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計
竜王地区	0	1	5	10	5	6	1	3	5	36
敷島地区	2	7	17	7	3	3				39
双葉地区	1	3	6	2	4	4	3	2	2	27
合計	3	11	28	19	12	13	4	5	7	102

※敷島地区の高校生については、別団体の「敷島子どもクラブ高校生リーダー会」として活動している。

(2) ジュニアリーダー活動の現状

主に、各地区においてジュニアリーダーを対象とした事業を実施しており、各地区公民館祭りへの参加や、竜王地区では子どもクラブ体験会(バルーンアート、野外炊飯、レクダン等)や野外活動研修、敷島地区では清川・吉沢地区での研修会やウィンターキャンプ、双葉地区ではドッジビー大会や福祉施設訪問など各地区の特色を活かした活動をしている。

また、市子どもクラブ指導者連絡協議会においてもジュニアリーダーを対象とした事業(表3参照)を実施しており、平成27年度からジュニアリーダー交流研修会を日帰りから宿泊に変更、平成28年度からは各地区別に行っていたクリスマス会を市で一本化、平成30年度からは青少年健全育成推進大会においてジュニアリーダーの活動発表を行うなど、活動の充実を図っている。

■ (表3) ジュニアリーダー活動の参加人数

事業名	のべ参加人数(ジュニア)			
	H28	H29	H30	R01
ジュニアリーダー交流研修会事前研修	不実施	12	13	20
ジュニアリーダー交流研修会	25	16	16	21
ラジオ体操・軽スポーツ体験会	23	不明	10	6
バルーンアート研修(ジュニアリーダー交流会)	17	18	28	18
わくわくフェスタ (H30 で事業終了)	27	台風中止	34	
青少年健全育成推進大会活動発表	不実施	ジュニア 不参加	7	5
クリスマス会事前研修	22	14	19	15
クリスマス会	31	17	34	22
合計	145	77	161	107

(3) ジュニアリーダー確保・育成

ジュニアリーダー活動を周知し、より多くの子ども達にジュニアリーダーに加入してもらうため、現在行っているPR活動は次のとおり。

現在行っている周知活動

- ・球技大会など子どもが集まるイベントでのチラシ配布
- ・青少年関係団体の総会などにおける活動紹介
- ・青少年健全育成推進大会でのジュニアリーダーによる活動発表
- ・市ウェブサイトでの活動紹介
- ・広報誌『甲斐市の青少年』での周知
- ・市内学校へのチラシ配布（地区民会議で実施）

4 課題

各地区での活動では、ジュニアリーダー登録はしているが、あまり活動には参加出来ていない子どもがいる。

敷島地区では、毎年度当初に育成会地区役員にジュニアリーダーの選出をお願いしているが、地域により温度差があり活動に苦慮している。

市の活動については、年間を通じて学校行事や地区の行事と日程が重ならないよう調整して開催しているが、子ども達が参加しやすい日程を確保することが難しくなっている。また、市子どもクラブ指導者連絡協議会役員会でも子ども達の多忙化や指導者への負担増などにより、市での新規事業の実施は難しいとの意見も出ている。

一方で、子ども達の都合や意欲に関わらず、保護者の協力も不可欠であるため、大人世代に当事者意識を持ってもらうことも課題となっている。

令和2年度 甲斐市社会教育委員

委員長	立澤 眞一	委員	坂本 太久己
副委員長	進藤 善子	委員	森本 清
委員	柴田 健一	委員	五味 和恵
委員	小宮山 謙二	委員	田中 實
委員	廣瀬 俊江	委員	前村 はぎ映
委員	近藤 千尋	委員	清水 宝文
委員	鶴田 良子	委員	三森 尚美
委員	秋山 均		

答申書編集委員会

編集委員	立澤 眞一	編集委員	小宮山 謙二
編集委員	進藤 善子	編集委員	廣瀬 俊江
編集委員	鶴田 良子	編集委員	坂本 太久己

審議経過

	年 月 日	内 容
第1回 定例会議	令和2年 9月 3日(木)	教育委員会より諮問 編集委員会を組織
第1回 編集委員会	令和2年 9月 15日(火)	答申書の構成について
第2回 編集委員会	令和2年 10月 13日(火)	現状・課題・展望の整理
第3回 編集委員会	令和2年 11月 6日(金)	答申書(素案)の検討
社会教育委員の会議 (書面検討)	令和2年 11月中旬～月末	答申書(素案)の検討
社会教育委員の会議 (書面開催)	令和3年 1月 18日(金)	答申書(素案)の最終確認
答申書手交式	令和3年 1月 25日(月)	教育委員会へ答申